



プログラム登録

▽入試

日独共同大学院プログラムに参加できるのは、東京大学大学院総合文化研究科博士課程に所属する学生です。既存のいずれかの専攻の入試を受け、入学後に、指導教員と相談のうえ本プログラムへの仮登録手続きをとってください。プログラム委員会による審査と、所属専攻・コース主任の承認を得て、正式に登録が完了します。

▽プログラム登録

4月(当該年度の博士課程入学者)

- 所定期間（3年以内）での博士論文執筆を目指していること。
- 博士論文を総合文化研究科に提出することを前提としていること。
- ドイツのパートナー大学での研究滞在を希望していること。
- 研究分野は問いません。ただし、共同研究課題（学際的市民社会研究）に近いテーマをもつ学生が優先されます。

プログラム登録要件

問い合わせ先

日独共同大学院プログラム運営委員会

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科附属

グローバル地域研究機構 9号館3階313号室気付

E-mail: igk@igk.c.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://igk.c.u-tokyo.ac.jp/>

日独共同大学院プログラム

「日独共同大学院プログラム」とは、独立行政法人・日本学術振興会（JSPS）とドイツ研究協会（DFG）との共同事業として、日本とドイツのパートナー大学が協力して大学院博士課程の教育研究を共同で行ない、プログラムに参加する学生が出身大学において博士号を取得することを支援するものです。

2007年9月から2017年8月までの期間、「学際的市民社会研究」を共同研究課題とし、東京大学大学院総合文化研究科とマルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部とのあいだで集中的に学生・教員を相互派遣し、年2回の共同セミナー、国際シンポジウム等を実施しました。

東京大学では10年間にわたる「日独共同大学院プログラム」の成果と実績を受け継ぎ、同大学院総合文化研究科の博士課程教育プログラムとして設置された「日独共同大学院プログラム」科目を引き続き運営します。今後はこの「日独共同大学院プログラム」を中心に、ドイツ・ヨーロッパ研究センターが提供する修士課程プログラム「欧州研究プログラム」とも連携しながら、ハレ大学をはじめとするドイツのパートナー大学（ギーセン、ボン、ベルリン、ケルン、デュッセルドルフ等）、ドイツ研究協会（DFG）、ドイツ学術交流会（DAAD）等との協力関係を深め、大学院共同教育を通じて、日独大学院における国際的な学術交流を促進し、若手研究者養成と国際共同研究の充実を目指します。

また中・長期的な計画として、ドイツのパートナー大学と協力し、新たな共同研究課題を設定し、「日独共同大学院プログラム」の新規採択を目指します。

プログラムの趣旨

「日独共同大学院プログラム」とは、日独の大学が大学院博士課程の教育研究を共同で行い、プログラムに参加する学生が出身大学において博士号を取得することを支援するものです。2007年9月から2017年8月までの期間、独立行政法人・日本学術振興会（JSPS）とドイツ研究協会（DFG）の支援に基づき、東京大学総合文化研究科とハレ大学との間で集中的な学生・教員の相互派遣と共同セミナー・国際シンポジウムが実施されました。今後は、新たな共同研究課題のもと「日独共同大学院プログラム」新規採択が目指されることとなりますが、その間も大学院総合文化研究科の博士課程教育プログラムとして設置された「日独共同大学院プログラム」科目を中心に、ドイツのパートナー大学との間で以下のプログラムを実施していきます。

▽博士課程学生の派遣

東京大学大学院総合文化研究科とドイツ協定校とのあいだで締結された学術交流協定に基づき、大学院総合文化研究科の博士課程に在籍する学生（本プログラム登録者）のうち、東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センターの海外滞在旅費の援助を受けて協定大学に滞在します。また博士論文執筆のための短期間の海外調査に対しても、旅費が援助されます。

▽複数指導教員体制

プログラムに参加する学生は、出身校の指導教員に加えて、パートナー校の指導教員による研究指導を受けることができます。教員の相互派遣によって、パートナー校の教員による集中講義も行なわれます。2018年度は10月にハレ大学パトリック・ヴァーグナー教授（現代史）による集中講義が実施される予定です。

▽共同セミナー

ドイツと東京で開催される共同セミナーを通じて、日独双方の教員、学生間の緊密な交流が行なわれます。共同セミナーや共同シンポジウムを通じて、共同研究課題（学際的市民社会研究）に関する共同研究も進めます。



2016年3月東京大学で開催されたハレ大学との共同セミナーの様子

●国際的な環境の中での若手研究者育成

▽国際的な共同教育を大学院博士課程の教育プログラムとして実施し、国際的水準の大学院教育を実現します。

▽日独のきめ細やかな共同教育を通じて、高い水準の博士論文を短期間で執筆することを可能にします。

▽相手国の研究者・学生との交流を通じて、若手研究者を早い段階から国際的な研究ネットワークに組み込みます。

コーディネーター・運営組織

▽日本側（東京大学大学院総合文化研究科）

【コーディネーター】梶谷真司（超域文化科学専攻教授）

【プログラム運営委員長】石田勇治（地域文化研究専攻教授）

【日独共同大学院プログラム運営委員会】市野川容孝（国際社会科学専攻教授）、森芳樹（言語情報科学専攻教授）、竹峰義和（言語情報科学専攻准教授）、外村大（地域文化研究専攻教授）、森井裕一（地域文化研究専攻教授）、平松英人（ドイツ・ヨーロッパ研究センター助教）

カリキュラム

●カリキュラムの特色

▽パートナー校への留学

出身校→パートナー校→出身校の順に滞在する「サンドイッチ方式」による教育を受けることができます。

▽海外滞在旅費の支援

パートナー校での滞在、ドイツへの調査旅行に対して、旅費の支援を受けることができます（ドイツ・ヨーロッパ研究センター「博士論文奨学助成金」として別途審査後に支給）。

▽複数指導教員体制

参加学生は、日独2名の教員による研究指導を受けることができます。パートナー校の指導教員を選ぶ際には、出身校の指導教員とよく相談して下さい。

▽論文執筆と修了

博士論文作成については所属専攻の規定に従います。プログラム修了者には、日独共同大学院プログラム修了証が授与されます。

▽主な使用言語

主要言語はドイツ語と日本語ですが、英語などその他の言語が使用されることもあります。

●日独共同大学院プログラム科目

プログラムに参加する学生は、博士課程修了必要単位（20単位）に加えて、以下の日独共同大学院プログラム科目より6単位を取得します。

▽日独研究論：日独地域研究並びに日独比較研究のために必須の基礎的知見・アプローチの手法を習得します。

▽日独研究特別研究：パートナー大学で提供される大学院ゼミ・コロキウムへの参加が単位認定されます。

▽日独研究演習：共同セミナーでの研究報告と積極的参加が単位認定されます。

本プログラムは、東京大学大学院総合文化研究科の教育プログラムですが、修士課程欧州研究プログラム(ESP)など、これまでの東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)の研究・教育実績をふまえて発足するものであり、本プログラムに参加する学生はDESKの研究・教育活動にも積極的に関与することが求められます。

東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)との関係